

古代の地方官衙出土の木簡で側面に穿孔が施された例としては、

現時点では出雲国庁跡（本号236頁。及び、平石充「出雲国庁跡出土木簡

について」『古代文化研究』三一九九五年）、多賀城跡（本誌第六号）、

多賀城市山王遺跡（本誌第一八号）、及び本遺跡出土の四例のみであ

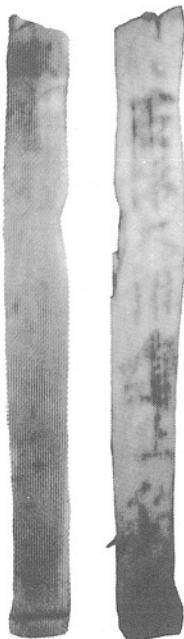
る。

(2)は、上端はキリ・オリの痕跡がある。第一字めの上には墨痕が見られないで、上端は原形をとどめていると思われる。下端と左側面は欠損しており、第二字めから下へも文字が続く。板目。

(3)は、上端、下端、左側面は欠損しており原形をとどめているのは右側面のみである。上端には文字が続く。板目。

(2)(3)は文字が判読できない上に、包含層からの出土であるため、その性格をつかみにくい。ただ、本木簡出土地点付近の同じ層からの出土遺物には、曲物底部、木簡状木製品の他、白磁碗（大宰府分類のIV類）、淳熙元宝（一一七四～九〇）、土師質土器の脚付皿などがある。本木簡の年代も一二世紀末から一二世紀前半頃と考えられる。

（久保田一郎）



(1)

埋蔵文化財写真技術研究会編

『埋文写真研究』第九号

文化財写真の研究、技術、情報など写真を撮る人だけでなく、写真を使って報告書を作る人、これを読んで情報を得る人まで、文化財調査に関わる人達に必携の雑誌。年刊で現在九号まで刊行されている（三号までは品切れ）。

B5版、一六頁、カラー図版多数、一九九八年七月刊
定価三、〇〇〇円
送料四冊まで五〇〇円、五~一〇冊まで一〇〇〇円

一一冊以上は無料

申込先 〒六三〇一八五七七 奈良市二条町二丁目九一一

奈良国立文化財研究所内

埋蔵文化財写真技術研究会 値幹雄宛

TEL 〇七四二一三四一三九三一

郵便振替 京都一〇五〇一九一九九三〇

埋蔵文化財写真技術研究会